

大学入試改革—eポートフォリオの活用

「学びの履歴」を多面的に評価

2020年度の大学入試から本格的に利用が始まる「Japan eポートフォリオ」(JeP)。試験の点数だけでなく、高校3年間の学習成果を評価する方法として、各大学が活用に向けた検討を進めている。一方、入試に限定せず、生徒の主体性を高める仕掛けとして開発した民間のポートフォリオも高校現場に普及しつつある。

部活・留学経験など通し主体性測る

JePは、文科省の委託を受けた関西学院大学が中心となり、学びの履歴を多面的に評価する入試へと転換する。従来の「二発勝負」の入試に、開発のきっかけになった



eポートフォリオを入力する生徒 東京都立町田高校、5月

は、文科省の有識者会議が示したような方針だ。大学にとっては、学校行事や部活動などに取り組み姿勢も見えてくることから、学力の3要素のうち、ペーパーテストでは測りにくい「主体性」を評価するツールとしての期待も高まっている。

教員のコーチングの役割増す

JePが入試の出願時に利用されるのに対し、民間のポートフォリオは高校3年間の学習履歴を記録し、振り返りに生かすことで生徒の「主体性」を高めるのを狙いとしている。

例えば、ある民間教育ICTプラットフォームでは、4月からポートフォリオ機能を追加した。学校行事や定期考査などの後に、気付いたことや振り返りを記入する。振返りはJePと対応した8つのカテゴリのどれかに整理

JePの入試の出願時に利用されるのに対し、民間のポートフォリオは高校3年間の学習履歴を記録し、振り返りに生かすことで生徒の「主体性」を高めるのを狙いとしている。

また、他の民間のポートフォリオでも同様の機能を追加している。ポートフォリオ機能を活用する上で重要なのが、具体的な目標の設定だ。曖昧な目標設定では効果的な振り返りができない。どの程度達成できたかが分かりやすい目標を設定することで、自己評価や改善点が記入しやすくなる。また「記録すること」が先行すると、生徒にとって負担

調査書への活用にも期待



尾木 義久

関西学院大学 アドミッションオフィサー

大学入試センター試験を衣替えるなどの高大接続改革では、受験生の「主体性」を評価することが柱の一つ。主体性の評価を巡って文科省から委託を受けて研究している、関西学院大学の尾木義久アドミッションオフィサーに研究内容を聞いた。スマートフォン・パソコンなどから生徒が自分の学習経験などを記録していき、入学者選抜で活用する「Japan eポートフォリオ」の構築が研究の中心となっている。

このたびの高大接続改革は、大学

入学者選抜、大学教育、高校教育を一体的に改めるものです。高校教育では「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)による生徒の学びの改善が行われ、「学びに向かう力、人間性」を含めた三つの資質・能力を生徒が身に付けられるよう、学習者目線の改革が行われます。

調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

難関大学においても、18歳人口の減少により一般入試が成り立たない時代が到来するといわれています。これまでのふるい落としのための入試からマッチングの入試に転換することが求められます。

そのような中で、JePへの期待は高まってきているのを感じます。成果に加えプロセスを見ることもできるようになることで、高校にとってはこれまで注目されなかった生徒に目が当たることになり、大学にとっては、より多様な生徒を受け入れることができるようになると思います。

調査書への活用にも期待。調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

調査書への活用にも期待。調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

難関大学においても、18歳人口の減少により一般入試が成り立たない時代が到来するといわれています。これまでのふるい落としのための入試からマッチングの入試に転換することが求められます。

そのような中で、JePへの期待は高まってきているのを感じます。成果に加えプロセスを見ることもできるようになることで、高校にとってはこれまで注目されなかった生徒に目が当たることになり、大学にとっては、より多様な生徒を受け入れることができるようになると思います。

調査書への活用にも期待。調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

難関大学においても、18歳人口の減少により一般入試が成り立たない時代が到来するといわれています。これまでのふるい落としのための入試からマッチングの入試に転換することが求められます。

調査書への活用にも期待。調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

難関大学においても、18歳人口の減少により一般入試が成り立たない時代が到来するといわれています。これまでのふるい落としのための入試からマッチングの入試に転換することが求められます。

そのような中で、JePへの期待は高まってきているのを感じます。成果に加えプロセスを見ることもできるようになることで、高校にとってはこれまで注目されなかった生徒に目が当たることになり、大学にとっては、より多様な生徒を受け入れることができるようになると思います。

調査書への活用にも期待。調査書作成の現状では、高校の教員が生徒から提出された活動の記録をコンピュータに入力して指導要録をまとめるなどして、3年次に調査書を作成していますが、調査書は生徒には非公開のため、生徒がアピールしたい項目の突き合わせができないのです。

また、高校の新たな取り組みによる資質・能力を評価するには、やはり時間をかけてじっくりと一人一人を見つめる入試に転換していくことが大切です。

感ばかり増えてしまう結果になりかねないので注意が必要だ。あくまで目的は、自己肯定感を高めることにある。

eポートフォリオは紙のワークシートよりも、手軽に記録を残せて見返しやすいなどメリットも多い。民間のポートフォリオの導入は約5千校に上る。

eポートフォリオの普及が今後の高校現場に与える影響について、開発関係者は、教員の役割の中でコーチングの役割が増すと同時に、生徒の自己成長につながるやりやすい活動や学校行事の指導に、より重きが置かれるようになる

動▽留学・海外経験▽表彰・顕彰▽資格・検定の八つのカテゴリに関連した自身のデータを入力し、情報を管理する仕組みだ。

生徒が書き込んだ記録は教員も閲覧可能で、進路指導の材料になる。調査書などの提出書類の作成にも役立つことから、教員の負担軽減にもつながるとされる。

本格的な導入以降、入試の中でどのように使うかは、それぞれの大学の方針による。来年度は主に推薦入試やAO入試の際の加点などに利用するところが多い。現実には各大学ともまだ手探りの段階だ。

2018 第5回

夏の教育セミナー

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

この夏8月に、全国12都市で開催!

5年目となる本年はより実践型へ!

昨年8月、全国12会場で「夏の教育セミナー」を開催。約5,000名の先生方にご来場いただきました。今年も大盛況が予想されます。ぜひご参加ください!

残り7会場! お申し込みはお早めに!

夏の教育セミナー kyoiku-sakidori.com

全国12都市・会場にて、順次開催いたします。お近くの会場へ、ぜひご参加ください。



開催地・日程		
8大盛況のうち終了	8大盛況のうち終了	8大盛況のうち終了
8/6 福岡	8/7 広島	8/8 横浜
8/9 大阪	8/10 金沢	8/17 神戸
8/20 千葉	8/21 名古屋	